

2013

SINCE 1983

冬



NETWORK VOL.149

TERRA



第25回和道流空手道福岡大会にて

「道場は厳しさを教える場」

空手道を人間教育の手段として教えてきた「和道流空手道古賀道場」は、33周年を迎えました。先代の古賀武夫先生のところよりその教育方針、指導方針は変わらず現在も元気に頑張っております。

「古賀道場」は空手を教える道場ではありますが、決して「空手教室」ではありません。ですから、空手を上手にしてあげることを目的としておりません。「上手になりたければ、自分で努力しなさい」と指導します。道場での稽古を通じて、厳しさや辛さ、嬉しさや達成感を肥やしに「人」として大きく成長してくればいいのです。古賀道場では、空手が上手な人、強い人よりも、直向に努力をする、自分の目標に向かってわき目もふらず邁進する、そんな子達を多く育てたいと思います。今年も、古賀道場は「不親切な道場」として厳しい指導を心がけてまいります。

CONTENTS ■ 2013冬

古賀武夫先生の言葉を辿る
一所懸命 恩返し Vol.3
『人を幸せにする権利』

大野 博之 2

■地球市民の会

和顔愛語	佐藤 昭二	3
TPA タウンジーより活動報告		4~5
ミャンマー事業を応援してくださっている会員さんの声		6
タイ通信 ～活動地訪問記～		7
LCC(格安航空)を活用した地域円卓会議の報告		8
多国籍なお料理に舌鼓!!		9
2012年地球市民の会 5大ニュース		10
昨年の話せないけど、話したいニュース		11
協力者一覧		11

■夢の学校

夢の学校 教育シリーズ⑧	12
「夢の学校への思い」⑮	13
「私の考える教育とは？」⑮	13

■和道流古賀道場

道場通信	14
------	----

■古賀英語道場

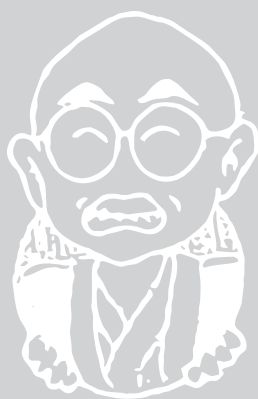
英語的思考のススメ Vol.11	15
------------------	----

■共同執筆

1~3月のお知らせ	16
-----------	----



世界の平和と親善 地域社会の向上発展



一所懸命 恩返し Vol.3

『人を幸せにする権利』

大野 博之

今号も「古賀武夫ブックレット 第四号 『一所懸命 恩返し』」(平成七年一月、平成十一年六月)から、古賀先生の一九九六年(平成八年)の前半の言葉を辿ります。この年の後半は映画「人間の翼」の上映が全国に広がり、様々な反響は良くも悪くも出てくるようになり、その度に映画の意味を考え、思索を深めていきました。発言もそれに従ったものが増え、キーワードとして「家族」が頻出するようになりました。

明るい家族が地球を作る

『過去を引き継ぎ、現在を担い、未来を預かっている私たちは、太陽を土を水を、親を先祖を敬い、感謝の心を持って、まずは家族から、そして、世界中親戚でない人はいないのですから、全ての人々への利他の心をもって行動し、本物の地球市民に育っていきましょう』

後期印象派の巨匠ポール・ゴーギャンの作品に『我々はどこから来たのか、我々は何か、我々はどこへ行くのか』があります。ゴーギャンが抱いていた人生観や死生観、独自の世界観などが顕著に示されている彼の最高傑作と呼ばれている作品です。実は、この作品のタイトルについて、古賀先生はいつもこのことを感じながら生活しなければならぬとおっしゃっていました。「それは、周りのすべてのものから感じることが出来る。欲を離れ、与えることを考え、人のことを自分のこと以上に考え、今日も生かされている有り難さを知れば、いつでも頭で理解できるのではなく、肚で感じることが出来るようになる」と解説されました。「本物の地球市民」とは「過去を引き継ぎ、現在を担い、未来を預かっている」責任を果たしていくことで、その基本が家族なのだとおっしゃっているようです。

いい家族になりましょう

『平和』というのは戦争がないというだけではなく「お互いに睦み合う」状態であることを言います。睦みあい、感謝し合う基礎は、やはり、過去、現在、未来を通じて、夫婦、親子、兄弟、家族です。仕事も、社会活動も、結局は家族が基盤であり、家族のために行っているのではないのでしょうか。前号で、古賀先生が特攻で亡くなったプ

口野球選手で戦前最後のノーヒットノーランピッチャー・石丸進一の生涯を描いた映画「人間の翼」にのめり込んでいった理由を考えました。映画初演が終わって六ヶ月、古賀先生が映画制作から上映の活動の期間を経た時期での発言のなかに、古賀先生が「家族」を強く語るようになりました。その背景は、映画の主人公、石丸進一だけが特攻で死んだわけではなく、六九五二名の方が特攻で亡くなり、またそれ以外にも数多くの戦争で亡くなった方々がいて、その全ての人への鎮魂の代名詞として石丸進一の物語を語っているという思いにありました。古賀先生は、多くの特攻で亡くなった方を調べられていました。その中で死にゆく若者と、その家族とのふれあいに大きく感動し、涙し、そして家族の尊さをより深く理解し、ここに平和の原点を見つけたのでした。

特攻で出征することが決まった息子と母が送った和歌の遣り取りです。

(母) 現し世の短き縁の母と子が 今宵一夜を語り明かしぬ

(子) いざさらば、我が御国の山桜 母の身元に帰り咲かなむ

(母) 散る花の潔さを愛でつつも 母の心は悲しかりけり

我が子を失う母の悲しみの深さを語る情愛の交流に古賀先生は涙しました。

そして、石丸進一が所属した第五筑波隊の隊長・西田中尉(享年二十一歳)のお母さんのお話です。西田中尉のお母さんが基地に慰問に訪れたのは西田中尉の出征の二日後でした。対応した方はそのことをお母さんに話すことができなかったもので、息子さんは前線に転動したと嘘を言い、基地内を案内しました。基地内の休息所に行く間に香華が飾られており、そこには「西田高光中尉の霊」と祀られていました。それを見た対応者が慌てたそのとき、同行していた兄嫁がそつとささやきました。「義母は字が読めません」。そして、休息所まで案内し、なんとか場を取り繕ったつもりだった対応者に、西田中尉の母が深々と頭を下げ「ありがとうございました。息子がお役にたつたと分かって、安心して帰ります」とお礼を述べました。文字は読めなくても、母の勘で全てを悟ったのだそうです。この対応者が従軍記者だった後の大作家・山岡荘八その人でした。

た。

母を悲しませることが戦争そのものであるのならば、平和とは母が悲しまないことなのではないかと思いました。自殺で、交通事故で、犯罪で、子どもを失う母は現在もたくさんいます。そして、その母の悲しみを思うと、古賀先生が本当の平和にこだわったのは、今の平和が本物の平和ではないというのを伝えるためだったのだでしょう。

人間の翼の意味

『現在と未来を担う我々一人一人が、光り輝いていきいきと生きることで、絶対平和と真の繁栄の実現を誓うものである』

この頃の古賀先生の講演のタイトルは「光り輝いて生きる」「あなたは今、本当に生きていますか」「生き通す特権と責任」というものでした。内容は、タイの子どもの話から人間の翼の話に渡るもので感動のない人生に意味はないというメッセージでした。そのころの世相として「いじめ」による自殺が問題になっていたこともあり、特攻で亡くなった石丸の無念「アメリカさんとは鉛の玉でなくて、野球のボールで戦いたかった」という言葉を引き出し、「人間は生きるために生まれてきた、死ぬためではない。だから、あなたは生き続けなければならぬ。人の命を奪ってはいけません」というメッセージも込められるようになっていました。この思いは後年「いのちのまつり」の絵本出版につながっていったのだと思います。

※一九八六年二月に中学二年生の男子生徒のいじめによる自殺事件(中野富士見中学いじめ自殺事件)が起こりました。俗に「葬式」つこ事件」とも言われ、学級担任がいじめに加担するなど日本で初めていじめ自殺事件として社会的に注目された事件です。このあと、全国で十代によるいじめを原因とする自殺が後を追いつ、当時の文部大臣が緊急アピールをしました。あれから二十七年経った今でも、いじめによる自殺問題が続いていることにこの問題の深さと、社会全体で取り組むことの重要さを考えさせられます。

(以下続く)

会長エッセイ

和顔愛語



認定NPO法人 地球市民の会

会長 佐藤 昭二

新春に思う

明けましておめでとうございます。
皆様におかれましては良いお正月を迎えられた事とお
慶び申し上げます。

しかし、ここ数年前より、日本を取りまく国際情勢
が著しい悪化を見せて居ります。また国内に於いても、
政治、経済、教育と益々国民不在の感が有ります。新
春に当たり、この点について考えたいと思います。

昨年暮れに行われた衆議院の政権交代によっての今
後に期待するところ大であります。私はこれまで何度
も「全てのものに中心があり、中心無きものは消滅す
る…」と申し上げて来ましたが、それは物質的なもので
あれ、精神的なものであれ同じです。政治の世界に於いて、
幸か不幸か政権与党として君臨してきた民主党が選挙
に於いて惨敗を期しました。民主党という、党員が共
有する文章化された党綱領を持たぬ政党であるという
事実において、中心が定まらぬ政党であるということ
をいみじくも示し、成るべくしてなったものと私は
思っています。

ことに国際情勢に於いては、まさしく中心を定め、
腹を据えて事に当らねば取り返しのつかぬ事となりま
す。政治の世界に於いて、いや我々の世界に於いて、
常に中心は国家であると私は信じています。しかるに
数日前、民主党の元総理大臣が、わざわざ隣の中国に
赴き、「沖縄県の尖閣諸島は日中間の問題領土とすべ
きだ」と述べています。私は耳を疑い、そして疑問に
思いました。此の方の中心は何処に在るのだろうか？
と。

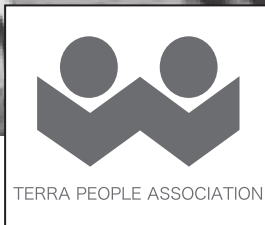
政治家とは世界全体の平和を考えながらも、常に自
国民の幸せ＝国益を考えて行動するものと私は思っ
ていました。なぜなら、政治とは「まつりごと」、「間」
を釣り合わせる事が仕事ですから、その基準としての
中心にあるものは自国民の幸せ＝国益であるべきだ
と思っていたからです。自国民の幸せをかくも軽く考
えているとは、このような政治家が日本の代表的立場
として存在することに対し情けない限りです。

しかし、このような事態になった全ての原因は私達に

ある事を悟らねばなりません。まさに私達の「志」の
欠如がこの様な人を選び、この様な形になって現れて
来たのであると私は思います。私の云う「志」とは、
私達が自分の利益だけを考えるのではなく多くの人の
幸せのために生きるという心の持ち方、つまり「地球市
民意識」のことです。したがって、この3年3ヵ月は
我々国民に中心が定まらなければ国をも危うくする
という大きな学びを与えてくれたと言えるのではないで
しょうか。中心の定まらない、すなわち政治家ならば、
自国民の幸せ＝国益を守り実現するという「志」の欠
如、私たち自身ならば、広く多くの命の幸せを実現す
るという「志」の欠如がそれであるということを目の
当たりにしたのです。戦後教育の中で「歴史」「宗教」「道
徳」が意図的に外され、その社会で育った私達が本当
の意味での「人間の幸せとは何か？」を考える時が来
たのだと言えます。

いま世界に目を向けると、経済的に苦しんでいる国
は沢山あります。しかし、何処よりも最も危機的状況
にあるのは日本の様な気がしてなりません。我が国は
対外的には、最近若干怪しくなってきましたが、経済
大国として名を馳せていますが、一方、内部的には大
きな病魔に侵されています。国内に起こっている諸々
の犯罪、孤独死や自殺等などの事件を見れば誰でも判
断出来る事で有ろうと思います。他の人の幸せを願う
人ばかりだとこのような犯罪や事件は起こりません。
利己的な「空気」が社会を覆い、その社会の中で人の
気持ちも流され、様々な犯罪・事件の内容が利己的な
様相に変わってきています。

起こった事件に対処することも大事ですが、事件の
奥にある闇の部分の私達は理解しなければなりません。
その原因の大きな要因の一つが正に教育の貧困が
もたらしたものであるということです。いま日本を覆
う「利己的空気」は従来型の詰め込み式の知識で解決
できるものではありません、個々人の心の中から湧き
上がる志と智慧が解決していくものです。戦後教育の
中で積み残したものの、つまり個人の幸せのみならず
広く「人間の幸せ」を実現するための教育、を取り戻す
べく一つひとつみんなで拾い集める初年度になったの
だと年頭に考えました。



TPA タウンジーより活動報告

近況 写真 スポット ライフイベント

今なにしてる？



パイェー保育園建設

2012年12月21日

今日は建設中のパイェー村保育園建設をモニタリングしてきました。建設は順調に進んでおり、会計もバッチリでした。

この保育園のドナーは、「チームみんならあばあ」です。岐阜の井川さんを中心に、数え切れないくらいたくさんの方が協力してくれています。この「チームみんならあばあ」の面白いところは、お金ではなくて物を集めている点です。

「お金を寄付してください」と呼びかけるのではなく、「いらない物、ちょ〜だい!」と呼びかけます。古いTV、冷蔵庫、本、服…家にある使っていないものを何でももらってきます。それを買取ってくれる業者に持って行って、お金にかえているそうです。

井川さんは、物をくれる人からは「いらない物を持って行ってくれてありがとう」、買取業者からは「持ってきてくれてありがとう」、そしてパイェー村からは「保育園建設に協力してくれてありがとう」と言われるので、とても嬉しいそうです。

井川さんの仲間に、ミサキちゃんという女の子がいます。障がいがある、自分でいろいろ動いたりできないのですが、「自分の服がミャンマーの子どもたちの役に立つなら」と、たくさんお古のお洋服を寄付してくれました。パイェー村保育園が完成したら、「ミサキ保育園」という名前をつけてもらうことになっています。たくさんの方の思いがたくさん詰まった保育園です。



タンボジだより

2012年12月9日

タンボジセンターでは、12/14にベトナム大臣が来る!ということで英語の自己紹介や、歌の練習をしました。準備が大変。もう〜来ないでくれ!という感じです(笑)



ごあいさつ

2012年12月27日

ミンガラバー。いつもご支援やご応援、ありがとうございます。
今回のネットワーク・テラでは、最近よくお褒めの声をいただくFacebookページでのタウンジー活動報告を抜粋してお届けします。
現地より直接アップしてもらっており、タイムリーに活動の様子がよく分かると好評です。

本年も、皆様の応援に応えられるよう、頑張っておりますので、見守っていただくと幸いです!

<http://www.facebook.com/chikyushiminnokai>



ティンシューゴンへ

2012年12月11日

今日はティンシューゴン村に行ってきました。ここは行くのが大変な村です。車で2時間弱、そこからバイクで30分ほど悪路を進みます。

この村で長崎の御厨さんという方が支援してくださり小学校建設をしています。順調に進んでいて、骨組みがほとんど終わっていました。会計もわかりやすく記録してありました。完成が楽しみです。



ピンダヤ植林事業

2012年12月4日

ピンダヤに行ってきました。今年、みどりの募金の助成を受けて植林事業をやっているところです。今は育苗のための給水設備整備を実施しており、水パイプの交換がどこまで進んだのか、見てきました。

1回目にお金を渡した部分は全て終了していて、第二弾の分はパイプを注文中とのこと。地元のエンジニアの意見も聞いて、計画から変更したところもあったので、その辺を確認してきました。また、12月26日、27日に日本から専門家の先生が来るので、そのことについても打ち合わせをしました。

ピンダヤでは、ウーチッセインというオジサンがリーダーとなって頑張ってくれています。TPAだけでなく、たくさんの方のNGOやUN組織と組んで地域開発をしています。彼は喫茶店経営とブロック販売で収入があるので、地域のためにやっている仕事は、全て無給でやっている(むしろ持ち出しもある)、趣味である、とのこと!素晴らしいです。リーダーが素晴らしいと、地域住民も彼を尊敬してついできます。





ナウンカ長期研修

2012年12月1日

国際ボランティア貯金の助成を受けて実施しているナウンカセンターの「農民の現金収入向上のための村落開発リーダー育成事業」。6月に研修を開始し、6ヶ月間の研修をしています。

11月27日～30日の日程で、鹿児島大学の畜産専門家の先生に講義をしていただきました。

「今まで根拠がわからず覚えていた知識の根拠がわかり、とてもためになった」、「ミャンマーに合った畜産の方法を教えてくれたので、自分の村でもやってみようと思う」、「サイレージを実践してみたい」など前向きな意見がたくさん出ました。

来ていただいた先生をはじめ、協力してくださった皆様、本当にありがとうございました。

写真は研修終了時に女子だけで仲良く撮りました♪



鈴木の一時帰国

2012年10月29日

タウンジー事務所駐在員の鈴木が1年に一度の一時帰国で日本に帰ってきました。今回は東京1回佐賀2回報告会を行いました。

以下、鈴木報告会にこれなかった方のために、ミャンマークイズ！を特別にご紹介！

みなさん、何問正解できるでしょうか～？



FCミーティング

2012年10月17日

今日はフィールドコーディネーター（FC）のミーティングでした。毎月月末にはスタッフミーティング（FCと各センター長、事務所スタッフ）を、中旬にFCミーティングを行っています。

FCとは、村との連絡役のスタッフのこと。全部で4ヶ所、7名のスタッフがおり、各地域を担当してくれています。電話がつかない村も多いので、TPAからの連絡もバイクでビューンと伝えに行ってくれます。また、小規模銀行事業のモニタリングを行ったり、たくさんの村で循環型農業研修を企画、実施してくれます。TPAがこれだけたくさんの事業を実施できるのも、FCがこまめにモニタリングしてくれるおかげです。

今日はミーティング後「テスト」をしました。彼らには研修講師として活躍してもらっていますが、講師としての能力を客観的に測る指標が今までなかったので、「認定試験」を行うことにしました。循環型農業の基本について筆記試験に答えてもらい、合格者にはTPA認定講師の資格を授与します。「農学部卒」などの学歴がないのを気にしているFCが多いのですが（TPAは学歴よりも実践を重視しています）、「認定講師」の資格をとることで、ちょっとでもハクをつけてもらえたらよいなあ。

テストを作成したのは新・事務所スタッフのドーンヌ。さすが元先生。監修は、日本で農業を学んだTPAカリスマ講師ウーミョーミン先生。1時間のはずが、ちょっと難しかったのか、1時間半ほどかかっていました。採点結果が出るのが楽しみです。



※地球市民の会のフェイスブックページ（<http://www.facebook.com/chikyushiminokai/>）のミャンマーの記事を再編集しました。

他の情報も出していますので御覧下さい。

* — *

あなたはミャンマー通?? ミャンマー〇×クイズ!!

第1問

タウンジーで一軒家（土地つき）を買おうとすると、最低でも、1,500万円は必要である。

広さは、うちの事務所くらいです（って、来たことない人はわからないけど!）

1500万ksじゃなくて、1500万円です。さあ、〇が×か!

第2問

ヤンゴン「2012年世界生計費調査都市ランキング」で上位50位以内に入っている。

ヒント：東京1位、ニューヨーク33位、パリ37位…

これは、世界の都市の物価高いランキングのことです。そのランキングでヤンゴンは何位でしょうか？ちなみに、東京が1位、大阪3位、名古屋は9位です。さて、ヤンゴンは？

第3問

昨年発表された2012年ミスインターナショナル。ミャンマー代表は「ミス・エスニック2012」を受賞した。

ミスインターナショナル、2012年は日本が一位をとりましたね。佐賀の鳥栖出身の方でした!

実は、ミャンマーからも初めて代表が出ており、それだけでもすごいことなのですが、彼らは特別賞をもらったのです。その特別賞は「ミス・エスニック」民族衣装が素晴らしかった人に贈られる賞だったか?

ちなみに、ミャンマー代表の彼らはバオ族です!

第4問

ミャンマーの学校では、小学生から英語の授業が始まる。

さて、答え合わせは次のページで! あなたのミャンマーを知ってる度はいがほどか!

* — *

ミャンマー事業を応援してくださっている会員さんの声

11月、長年地球市民の会、またミャンマー事業をご支援してくださっている鶴田さん、森さん、坂井さん、ひなた村自然塾の藤崎先生と一緒に支援先を訪問してきました！今回はその4名の方のミャンマーの支援先を訪れた感想をお届けします。

鶴田さん（2012年・ナウンカーナウンシン給水事業）

7年前、ニャウンカム村に行った時、養豚小屋の下の方から小学校3年生くらいの子ども2人が頭にバケツを担ぎ登ってきていました。大野さんの説明によると、この子ども達は、今日は水汲みで学校へは行けないとのことでした。今回、ハムシー寮の寮長・ウ・ケイマさんから、給水事業のお礼があり、「この水が来るのを100年待っていた」とのことでした。子ども達が水汲みはしなくて良くなり、寮の水も解決しました。私は、自分なりにわずかながらでも、ミャンマーの人たちの役に立てていると思っております。



左から4番目、鶴田さん 右から4番目、森さん

森さん

今回、2回目の訪緬となりますが、主な目的として用水事業の完成による給水施設の視察でした。この事業は、ハムシー高校・寮およびナウンシン村への給水を目的とした事業で、前回の訪緬の際に鶴田さんと共同で協力を約束したものです。

ただ、ハムシー高校近くの配水タンクは未だ建設中でしたが、他の埋設管の工事は全て完了しており、中でもナウンシン村に設置されている給水タンクには、満々と水が張っていて前回訪問の際（空っぽ）と比較して驚いたと思います。

亜香里さんの報告によると、用水管の埋設工事は各々部落人の奉仕作業によって完成されたと伺いました。水の大切さが分かる皆様の誠意ある努力に感謝申し上げます。

坂井さん（2010年、ガナインシェー小学校建設）



学校を建てて2年、ようやくガナインシェー小学校の子ども達に会いに行くことができ感激しました。こどもたちは本当に可愛く、別れのときは辛かったです。ガナインシェーの校長先生もいっていたが、仏縁で導かれ、今回支援することができ、また校長やこどもに会うことができ、本当に感謝しています。

今回の訪問の際、村の人と一緒に村を見て歩きましたが、村には電気がきていませんでした。でも彼らは自然に感謝し自然とともに、ないならないなりに、足るを知り暮らしています。貧しいといわれるが、果たして日本人はどうでしょうか、彼等の暮らしに学ぶことが多くありました。

ミャンマーを訪れ、改めて地球市民の会の活動の素晴らしさを感じました。現地で頑張り、ツアーでもずっと案内や通訳してくれた柴田さんに感謝したいと思います。

藤崎さん（2010～2012年ナーリー村保育園建設）

今、子どもたちの歌がクラスから園長室に聞こえてきます。

♪世界中の子ども達が 一度に笑ったら
空も笑うだろう 海も笑うだろう…

届けよう 僕らの夢を 届けよう 僕らの歌を
咲かせよう 僕らの花を世界に虹をかけよう ♪
ナーリーの保育園へ ひなた村の子どもたちの歌が届きますように…。



園の入り口に虹のアーチとサッカーゴールを村の人たちと作りしました。

そのアイデアは子どもたちが、3年間支援してきたナーリー保育園の開園式にと考えたアーチとゴールです。遠いミャンマーの地で形になったことに感激でした。

子ども達は未来そのものです。未来が輝き、世界中が笑顔になれるように祈ります。

チェズーティンバーデー ナーリー村

ミャンマー〇×クイズ 答え

<第1問>〇

ミャンマーでは土地の値段がどんどん上がっています！タウンジーでも1億ウン千万という金額の家もあるとか…

<第2問>〇

これはひっかけです！まさか、50位以内はないでしょーって、思いますよね。ヤンゴンなんと、35位！37位のパリよりも上！！
2010年 159位、2011年 70位、2012年 35位 ということで、めちゃくちゃ急上昇しています。ミラノ、ローマ、ウィーン、マドリード、バルセロナ、ミュンヘン、ドバイといった有名都市よりも高いそうです。

<第3問>×

「ミス・エスニック」ではなく、「ミス・インターネット」をとりました！！
「ミス・インターネット」とは、どうやら、インターネット人気投票で1位をとった、ということらしいです。
つまり、ネットを使っているミャンマー人がいっぱいいて、めちゃくちゃクリックしまくった、ということですね。

<第4問>〇

ミャンマーの学校制度は、5・4・2年の11年制です。
小学校が0・1・2・3・4年生 中学校が5・6・7・8年生 高校が9・10年生

小学校はなぜか0年生から始まるんですね。
それで、英語の授業はというと、小学校の0年生から始まるそうです。でも、英語話せる人、そんなに多くないような…。



タイ通信 ～活動地訪問記～

2012年12月14日(金)～21日(金)。日本は寒さが深まるなか、冬だけど常夏のタイを訪問。年1回のお米の収穫が終わりゆったりとした時間が流れる村々で、里親さん2名、大学生4名、社会人1名の計7名の参加者たちとタイの方々との間に、温かい交流が生まれました。

タイ地球市民奨学金事業を実施しているクーキャオ校(ウドンタニ県)とボーゲウ校(カラシン県)を訪問、里子たちとの出会い。そして、ボーゲウ校と同じ区に位置するジョムシー小学校(カラシン県)で図書館づくりに取組みました。心と心が触れ合った1週間を皆さんにもお届けします。

★図書館づくり@ジョムシー小学校

ジョムシー小学校のサティアン校長の「子ども達が感性を育める、広く視野を持てるような図書館をつくりたい」から動き出したこの取組み。小学校の子ども達、ジョムシーの村人、ツアー参加者、タイ北部で移動図書館活動を行っているNGOシーカ・アジア財団の力が合わさり、全校生徒20名の小さな小さな小学校で、夢のつまった図書館が完成しました。

想いをひとつに図書館づくりに取組むため、まずはゲームでスキンシップ。忍者ゲームや鬼ごっこ、フルーツバスケット等、参加者も子ども時代に返って大はしゃぎ。(大人気なく、子ども相手に本気…!?)

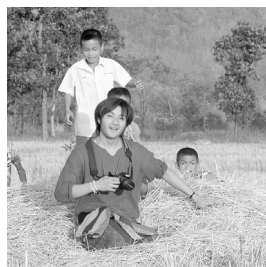
「どんな図書館にしたい?」とアイデア出し中。「綺麗で明るい図書館にしたい」「お日様の下でも本を読めるようにしたい」「お絵かきやゆったりできる空間も欲しい」等の声。

子ども達もわくわく想像しながら、話し合中。



今回、日本から絵本を数冊持っていきました。日本在住のタイ人のヌイさんとナツティさんに協力して頂き、参加者と共に翻訳ついても実施。

3日間、子ども達の家にホームステイ。子ども達は、お兄さんやお姉さんができて大はしゃぎ。夜明けから日が沈むまで、たっぷりと自然のなかで遊びました。



図書館が完成した日、子ども達は一冊ずつ絵本が貸し出されることに。絵本を持って遊ぶ姿は、喜びが溢れていた。当番で図書委員を担当し、貸し借りを管理していく。

ジョムシー村での外国との交流は、はじめてのこと。写真を使って日本の紹介、書道体験、日本食づくりなど、子ども達と共に楽しんだ。



「絵本コーナー」「一般書籍コーナー」「芸術コーナー(お絵かきや漫画など)」「アジアコーナー」等を設置。みんなで本棚をえんやこら運び、想い想い本を並べていき…完成!!

折り紙や植物で飾られ、心が和む空間に。

図書館を大切にしていきたいとの想いをこめて「最愛な図書館」と命名。初めてしてもらった読み聞かせに、子ども達は釘付け。お話の世界を楽しみました☆ツアー参加者で、「おおきなかぶ」を披露。最後、かぶは子ども達と一緒に抜きました☆

「人や絵本との出会いで感じたわくわくをいつまでも…」という想いで壁画プログラムを実施。食堂の壁に大きくタイと日本をつなぐ絵を描きました☆



2つの国の国旗が虹でつながれた。

心に残ったこと

ホームステイ、時には言葉が通じず大変な時もありましたが、すべての体験が刺激的で楽しかったです。とても優しく親切で、タイにも新しく自分の家が出来たように思えました。また会いに行きたいと思えます。(佐賀大学 勝君)

毎朝、「ふしゃ〜」と迎えに来てくれた子どもたち。手を引っ張る子ども達のキラキラした笑顔がとても可愛くて、とても嬉しかったです!!(佐賀大学 ふささん)

みんなで力を合わせて作った図書館。私達大人の一方的な思いだけでなく、子ども達も図書館に特別な思いを持ってくれたとわかり、大きな感動を覚えました。これから子ども達がたくさんの本に出会えることを祈っています。(NGO職員 直美さん)

★クーキャオ校、ボーゲウ校で里子たちに会ってきました!!

里親の皆さんからご支援いただいております中高生たちに会って参りました。数名、他の地域へ転校した学生の報告がありましたが、元気に学校生活を送っていました。1年ぶりの再会で、顔立ちが一回りお兄さんお姉さんになっていました☆



日本語クラスが開設されているクーキャオ校では、文化交流しました♪

★精米機プロジェクト@ボーゲウ校 視察

今年4月から開始した「精米機を活用して奨学金を支給しよう」というプロジェクト。校内で栽培したお米や購入したお米を精米し、ボーゲウ校の特産品として販売を開始していました。生徒たちが当番をもち、学ぶ場にもなっています。しかし、精米したお米の販路や取組みのPRがまだ不十分で、奨学金を出せるまで軌道にのっていませんが、協力して頑張っています。

学校でいただきましたが、もっちりしてとても美味しかったです☆



今回の図書館づくりの活動は、佐賀在住の奈良崎さまからのご寄付及び、チャリティーショップ「ばーん・たわん」への皆様へのご協力により叶いました。本当にありがとうございました。

★奨学金を届けました

本年度分の奨学金を届けさせて頂きました。一人ひとりが学べることに感謝しながら、日々の生活を送っていくと思います。

2013年も皆さまからの温かい応援をよろしくお願い致します。

佐賀と上海を結ぶ



LCC(格安航空)を活用した地域円卓会議の報告

皆さま、佐賀と上海を最安片道3,000円で行き来できる航空会社があることをご存知でしょうか？

昨年1月に中国の春秋航空が佐賀空港に発着しました。就航からも、なかなか佐賀への経済効果に繋がっていないのが現状です。また、日中関係の影響で搭乗率も下がる一方です。そこで、この機会に佐賀市と共同提案を県へ行い佐賀市の地域振興について佐賀の企業の方や行政、市民活動団体、大学関係者の人々が話し合う地域円卓会議を県主催で実施しました。

全4回行われました。

日程：

- 1 10月4日(木) 参加者：33名
- 2 10月24日(水) 参加者：20名
- 3 11月19日(月) 参加者：17名
- 4 12月20日(木) 参加者：22名

場所：アイスクエアビル



NHKで
放送されました！



こんなことしました！

毎回、様々な方々と一緒にワークショップを行いました。

- 1 回目は、中国人が佐賀県に来ることでもたらされる理想的な佐賀の様子を話し合いました。
- 2 回目は、その理想的な街の様子が実施できない問題は何か？何が邪魔しているのか？を話し合いました。
- 3 回目は、具体的なプランをたてました。
- 4 回目は、実施可能なプランを3つ作りました。

最終的に
できたのが

- 1 佐賀でのパッケージツアー
- 2 小龍包を佐賀に根付かせる
- 3 SMSやHPを使っのての情報発信



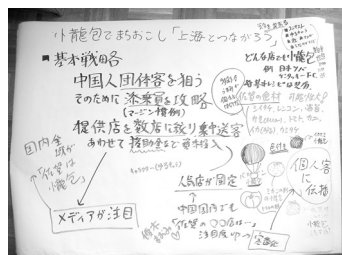
今後は、出来上がったものを実際にどのように実施していくのが課題になってきます。この事業をとおしてたくさんの方々とつながることができました。この事業だけの関係だけで終わらせるのではなく、今後も継続的に繋がっていきたいと思っています。

参加者の感想

参加者A氏(企業の方)

こんなに楽しい会は初めてでした。ゼロから何かを作り上げていく過程を学びました。難しく考えていくのではなく、みんなで知恵を絞り、楽しく作り上げていく方法を学びました。出来上がったプランは是非ともみんなで実現したいです。企業人としてというよりも、個人的にも佐賀を盛り上げていくためにこれからも関わっていきたいと思っています。

また、今後ともいろいろと参加したいと思っていますので、よろしくお願いします。



多国籍なお料理に舌鼓！！ 外国のめったに聞けない楽しいお話にワクワク！

途上国の子どものため、私たち日本人の気づきのために、地球市民の会を支えていただいている会員の皆様に、日ごろのありがとう、をお伝えする「会員の集い・大感謝祭」を平成24年12月9日（日）に開催しました。

70名の会員さん、ボランティア、関係者があつまり楽しく過ごしました。差し入れもたくさん頂きみんな「ニコニコ」な一日になりました。

当日の一番人気は「珍しい味だ、おいしい」と評判だったのはミャンマーの麺でした。ミャンマーから直接この日のために買ってきた麺にヘルシーなんにくオイルと東南アジア調味料で味付け。癖になる味でした。中国・火鍋（フウゴ）や本場スリランカ・カレー、タイ留学生が作ったタイ・グリーンカレーも、甲乙付けがたい、と皆さん舌鼓でした。



好評につき、また、開催します！お楽しみに～



2012年 地球市民の会5大ニュース

第1位 ミャンマー南シャン州で建設した農業用の灌漑堰

なんといっても民主化で昨年の世界10大ニュースの6位（朝日新聞）だったミャンマー。今回建設した農業用の灌漑堰は少数民族の支援事業として評価され、外務省の重要事項と合致し、また何よりも、ミャンマー辺境の小さな村の家族の笑顔を作り出すことが出来たという地球市民の会らしい事業だったことからの第一位です。

第2位 スリランカ的女子高生を招聘

佐賀北高校との交流などをしました。佐賀北高の学校関係者と生徒の皆様の協力のおかげです。また、佐賀市のNPO支援事業のチカラットの対象事業で、多くの佐賀市民のご支援をいただいたり、今回は事務局外にボランティアによる招聘委員会を立ち上げ、ボランタリーな取り組みで関係者の皆様に感動を共有することが広がったことなど、地球市民の会の原点のような事業でした。

第3位 東日本大震災 復興酒・絆伝心

東日本大震災支援事業としての酒造りプロジェクト。風評被害で困っていた宮城県登米市の酒米農家の米を買い取り、佐賀の酒蔵「天吹酒造」さんで復興支援の寄付つき商品として仕上げていただきました。米の輸送を運送会社「(株)トワード」さんの無償配送、酒瓶のラベルの手漉き和紙を提供いただいた「名尾和紙」さん、和紙への特殊印刷を原価で行ってくれた「音成印刷」さん、そして、酒を醸す作業に関わったボランティア、買って飲んでいただけた皆様、全員の成果でした。責任者は地球市民の会の理事西村一守さんでした。

第4位 富士町での子どもキャンプ

子どもの自然体験を目的とするキャンプではなく、少子高齢化の中山間地の経済的にもまた地域的にも活性化させるために、子どもキャンプを実施するという社会実験が実施され、評価が高く、来年度以降も実施することが決まりました。

第5位 来年度、上海の日本語を学ぶ大学生招聘事業の準備

尖閣の問題や日本人の中に中国人嫌いが表面化したなか、「それぞれの言い分はさておき、取りあえず仲良くせんば…」という地球市民の会らしい立場と、格安航空会社（LCC）の上海便がお膝元の佐賀空港にきたという物理的機会を活用し、来年度の事業のニーズ調査や実現性の吟味をしたところ、来年度の実施が決定されました。

番外 えびすFMでレギュラー放送

地球市民の会が内容をアレンジするレギュラー番組が佐賀のコミュニティFMである『えびすFM』で6月から開始されました。地球共感バラエティ「世界まるごと行ってみらん!?」毎週水曜日19時より。地球市民の会のフェイスブックページより番組が聴けます。

事務局員の 昨年の話せないけど、話したいニュース

あけましておめでとうございます！昨年2012年も地球市民の会はいろんな事業の中で感動したり、びっくりしたり、困ったり、失敗したり、笑ったり、初めてしたり、とさまざまなことがありました。会員さんがあまりご存知でない、事務局の内輪話を懺悔や暴露でお伝えします！

出来事



大野

～国際協力の基本を忘れるな～

ラオスに地球市民の会の事業の立ち上げの調査に行ってきました。特にラオスで最も遅れているといわれている南部の三つの県に行ってきました。アセアンのお荷物といわれているミャンマーとラオス。ミャンマーよりも進んでいるといわれているラオスですが、私が行った村には村中トイレがありませんでした。みんな森の中で穴を掘って済ましています。「さすがは森の民」と簡単に考えていたら、ガイドのラオスの方がショックを受けていました。「わが国に、こんな生活をしている人がまだいたなんて！」ガイドのショックに私がショックを受けました。尺度は常に現地に合わせなければならないのが、つつい自分の中の尺度で考えていて感性が鈍ってしまっていました…。まだまだ、甘すぎる！

～タウンジー事務所での…～

2012年11月、支援してくださった会員さんのミャンマー視察ツアーが2つありました。私もお供させていただきましたが、2つのツアーの間が3日空いてました。その間、私はTPAタウンジー事務所に宿泊することになったんですが…私が宿泊予定だった部屋で、チューチューとネズミの音が!! 恐ろしくなった私は、一人じゃ寝れない！と、事務所に暮らすあかりちゃんのベッドと一緒に寝せてもらうことに。次の日も、また次の日も。結局3泊ともアラサー女子二人、一つのベッドで仲良く寝たのでした。あかりちゃん、ありがとう♪



藤瀬

～チャーミングな勘違い～

2012年、夏。出会い・喜び・感動が溢れたスリランカ高校生招聘プログラム。多くの方々にご参加・ご協力頂き、素敵なプログラムを一緒に作ることができました★

高校生たち一人ひとりがとても愛らしかったのですが…ひと際チャーミングだったのは引率で来られたチャンディ先生。

佐賀市長表敬をさせて頂いた時、事件が起こりました…。どこにいるのか、どなたと会っているのか、正しく察知できていなかった先生。「贈り物です」と綺麗な象の置物を市長へ渡す先生の姿を見て、高校生たちが困惑。市役所を出た後、シンハラ語で生徒と先生が何やらもめている様子…実は、遠くスリランカから大切に持ってきた象の置物は地球市民の会に渡す予定だったと。先生は、「市役所」を「地球市民の会」の事務所と勘違いしていたらしい…大きく立派な事務所だこと笑。

市役所にある象の置物には、そんな笑い話が隠されていたのでした。チャンディマ先生、お話してごめんなさい…。



戸田

～化学変化したもの～

2012年の事業の中の「LCCを活用した地域円卓会議」での参加者からのコメント。その参加者は佐賀の企業人として会社のために働いていらっしゃる。少しでも多くの利益を生むように、少しでも会社が潤うようにと日々考えて動いていたそうです。その中で、知り合いに誘われて地域円卓会議に参加されました。最初は、あまりノリ気ではなく、付き合いもあつての参加でした。しかし、回を重ねていくごとにその方の体内では少しずつ化学変化が置き始めたそうです。今まで自分の知らなかった世界を知り、もっと利益追求とは違うものを知りたい！という考えになったそうです。そしてその事業を運営している地球市民の会ってどういう団体だ？と気になり、12月に行われました、「会員の集い」に参加してくださいました。実は、当日は大事な会議があったようですが、抜けれそうだったと思い、午前中で切り上げて来ていただきました。今回の事業のおかげで今までの自分の世界の狭さを知ったよ！ありがとう！という言葉に、かなりうるうるし、大感動した出来事でした。



岩永

～初体験！～

今年は私の初体験！『会員の集い』が開催されました。お名前だけ知ってる会員の皆様にお会いすることが出来て感激でした。いろいろ準備をする中での暴露話は、じゃんけんゲームに使った5円玉、新貨が手に入らず1枚1枚酢につけ磨いたものでした。それからどんぶりも手配してたのに届かず、開始少し前にないことに気付いた理事さんが大慌てで買いに走って下さいました。あつという間の楽しい1日でした。来て下さった会員の皆様、お手伝い下さった皆様、ありがとうございました！（追記：これは怒られるかもしれませんが、ここだけの話！大野事務局長はメタボ注意を検診で受けたそうです！どうぞ皆様、甘い誘惑をお願いします。）



江口

感動しました

協力者一覧

※2012年10月～2013年1月24日まで

正 会 員

土井 敏弘
山口 久臣
井口 潔
近田 真知子
深川 千幹
中村 清美
岩永 清邦
江口 恵美
藤瀬 伸恵
戸田 玲子
土井 美智子
相川 満雄
本村 満江
牧瀬 弓子
古川 昌宏
野口 翔平
徳光 清孝
堤 加奈子
北原 壽豊
野田 誠
久保 正敏
八田 康博
坂井 善徳
古賀 洋子
古賀 慈猛
古賀 友大
宮地 普工
夏秋 葉子
七田 秀徳
瀬戸 法子
瀬戸 晶子
瀬戸 幸子
山口 晃
山下 伸二
久恒 力也
森高 康行
岡本 勇一
鍋島 巧磨
小野 悦子
岩本 かおる
中本 正一
馬郡 有子
佐藤 昭二
木原 奉文
井上 常憲
植田 和美
木村 新次
小松 敏正
原 陽子

購 読 会 員

古賀 久志

山崎 弥生

特別賛助寄附会員

小林 敏孝

団体賛助寄附会員

(株)佐賀銀行総務部

賛助寄附会員

福井 丈一郎

南里 健

南里 葉子

寄 附 金

四社会

(株)佐賀銀行

(株)サガテレビ

祐徳自動車(株)

(株)電算センター

吉田 英雄

夢学&フレンズ

山下 雄司

ベジボーイ

書き損じハガキ・古切手

(株)佐賀銀行

西田 晶代

北高通信制

福岡内科消化器科医院

磯部 芳子

鍋島幼稚園

平松清風大学

吉井 英雄

石塚 雅子

佐賀大財郵便局

福岡 信子

(財)佐賀県国際交流協会

中島 康子

古賀 智津子

平野

佐賀駅前郵便局

つつみクリニック

瑞木産業

年末ホームページ支援寄附

福田 達裕

宮島 町子

中島 俊子

力久 修

浦郷 めぐみ

岡 大雅

野内 直穂美

安川 義巳

北村 直樹
真子 ハマ代

阿部 功

浦川 イツ子

富野 ともえ

西山 峰次

春木 伸哉

小林 敏孝

秋葉 幸伸

安永 孝子

前田 英彦

南里 玲子

瑞木 一博

保利 耕輔

細貝 睦子

吉田 英雄

高祖 しづの

中島 康子

松尾 大輔

藤原 克子

川添 恵子

中村 志津香

松林 久美子

上地 章夫

柳原 忠行

里中 長治

青柳 光美

八谷 まち子

横山 眞爲子

土井 眞信

川松 広栄

的野 生子

芦刈 由美子

円城寺 久好

植田 京子

北原 壽豊

熊本 由美子

野本 正彦

宮嶋 寛治

森永 勝馬

矢新 教子

眞崎 綾子

福田 祐子

横尾 知美

小園 拓馬

山下 定美

土井 敏行

藤木 修

丸山 文章

歳末事務局強化支援寄附

唐澤 利夫

平湯 慎介

佐久間 博

有澤 正典

宮地 大治

稲田 繁生

栗田 明

薩摩 和男

三遊亭歌之介

田中 進

眞島 トシエ

永倉 理一郎

馬場 憲治

田島 広一

長澤 京子

ニューボン新古賀

栗林 正則

山下 雄司

中島 法道

石井 訓志

増田 誠司

北島 恭一

小松 敏正

小山 高生

深川 千幹

西野 伸一郎

クーキャオ高校

林口 多江子

青柳 光美

内山 治郎

大野 博之

加藤 由紀子

西山 峰次

祓川 清美

円城寺 久好

松林 久美子

前田 綾子

的野 直喜

田久保 克明

納江 幸利

馬場 龍之介

佐々木 佳寿子

クーキャオ中学校

山下 雄司

安永 孝子

田中 律子

中村 圭一

吉田 純子

古賀 由紀子

井上 弘子

内山 治郎

江口 恵美

小松 智子

榎田 奈保子

大野 圭子

岡 大雅

川崎 朋子

千々和 美香

西山 峰次

榎田 智津子

平野 京子

眞子 ハマコ

南里 玲子

福田 達裕

愛野 良治

円城寺 久好

亀井 一恵

佐藤 弘子

倉富 博美

中村 眞美

的野 直喜

納江 幸利

武藤 鼓

眞崎 健次郎

池田 サチ子

田寄 正義

大塚 寿美雄

貝通丸 直子

吉井 学

平川 恵里

平嶋 トキ子

杉光 省吾

白井 憲一

松林 久美子

原田 典子

シシヨダヤ

松林 久美子

戸田 玲子

安永 孝子

矢新 教子

西山 峰次

ボーゲウ校

田中 俊郎

山口 勝矢

戸田 玲子

西山 峰次

愛野 良治

亀井 一恵

江口 はる美

前田 勝美

納江 幸利

福井 丈一郎

タイ教育基金

林口 多江子

宮島 町子

ミャンマー寄附

社環境パートナーシップ

ミャンマー・タンボジサポーター

佐賀富士ベンディング(株)

ジャパン福岡ペブシコーラ

コカコーラウエスト

西山 峰次

ミャンマー教育基金

三瀬 恵美子

野口 正子

ひなた村保育園

十二日会 野田

(株)ミズ

佐賀大学

(株)トータルハウジング

林 陽子

鈴木 実穂

横森 健治

箏友会

アトム動物病院

カンカウ準中学校建設寄附

佐賀大学

(株)トータルハウジング

林 陽子

鈴木 実穂

横森 健治

箏友会

アトム動物病院

支援金寄附

県立病院好生館

草場 一寿

(映画うたごころ)

笑いで元気を!落語会

プロジェクト

特非)国際NGOセンター

ばーん・たわん

藤瀬 伸恵

吉村 薫

浜口 静也

渡辺 ますえ

今林 勲

損保ジャパン佐賀コールセンター

河村 嘉

※順不同で掲載させていただいております。

※大変失礼ですが、敬称は省略させていただいております。いつも本当にありがとうございます!!

謹賀新年 今年もよろしく申し上げます。

「夢の学校をつくる会」から「夢の学校」へ

特定非営利活動法人夢の学校をつくる会は平成24年10月23日付けで「特定非営利活動法人夢の学校」と名称を変更しました。夢の学校準備委員会から8年。学校設立を目指し活動が続けてきました。

地球が教室、毎日が“いのちのまつり”！をモットーに

週末プログラム「土ようタマテ箱」が始まり、宿泊型自然体験・国際交流プログラム

「夏タマテ箱」、放課後プログラム「月～金タマテ箱」（後に「夢の学校タマテ箱」）

また、大人プログラムとして教育の原点を探り、考え行動するきっかけをつくる「教育シリーズ」を展開してきました。

形は変わってきましたが、五本の柱（日本、地球市民、武道・芸術、自然、語学）を軸に人間力を育む活動をつづけています。

当初の目的である学校設立がままならず、時には私たち自身が人間力を試されているのではないかと思います、歩みを止めようかと思

ったこともありましたが、子どもと共に人間性、国際性豊かな人材を育む場所が「夢の学校」だと信じて心新たに歩んでいきます。

これからもよろしくお願いいたします。

夢の学校 教育シリーズ⑧

「世界に通用する子どもを育てるために」 ～佐賀から真の国際人を～

期日：平成24年12月1日（土）

講演・シンポジウム中嶋嶺雄（公立大学法人国際教養大学学長）

シンポジウム 古川 康（佐賀県知事）
岩橋弘典（佐賀大学大学院生）
副島安香音（佐賀西高）
阿部慧菜（城北中）

コーディネーター 富吉賢太郎（佐賀新聞社編集局長）



今回は、英語のコミュニケーション能力を持ち、幅広く深い教養と判断力を身につけた人材の育成が大学の使命と考えておられる、公立大学法人国際教養大学学長中嶋嶺雄氏をお迎えし、講演をしていただきました。また、佐賀県知事や学生たちにも登壇いただき、これからの日本の教養のあり方を問いながら「真の国際人とは」をテーマにディスカッションをしました。

（参加者の感想）



- 国際人とは、言葉・文化等々トラブルを乗り越える力を持っている人と聞いて、別の面から国際化を考えることができた。
- 各学生パネリストがグローバル化に対してとても熱い思いを持っており、身近なことを例にしたりして話され共感を持てた。
- 中・高・大学生の本気の気持ちが出ており、またこういう場に進んで出てくることがグローバルの始まりだなと感じた。
- 国際化・グローバル化という言葉が前面に出ていますが、真の国際人＝真の日本人（まずは）であることが基本だと思います。

これからもさまざまな角度から教育のあり方の原点を探り、考え、行動するための講演会をおこないながら、「夢の学校」の活動を広げていきたいと思っています。

「夢の学校への思い」 ⑮

ひとり、ひとりの中にある夢の学校

理事 吉村 直記



私は、古賀先生より4歳の頃から英語を、5歳の頃から空手を学んでいる筋金入りの道場っ子です。「学校を創る!」と古賀先生が言っていたのは、いつのことだか定かではありませんが、先生が最後に掲げた大きな「夢」だったと認識しています。

人の育成に命を捧げた古賀先生は、数多くの種を日本中、世界中にまいてくれました。次に、その種に水をやり、花を咲かせるのは古賀先生に関わった私たちの使命であると考えています。

小・中・高一貫の「学校」を創ることを目標にしていた先生ですが、未だに私たちは学校設立という目標は達成しておりません。しかし、今日になって想うのは、「夢の学校」という場所は、決して一つの場所や形に限らないのではないか、と思うのです。

私は、「夢の学校」は古賀先生に関わる全ての人の心に存在するのではないかと考えています。それぞれの人の心にある古賀先生がまいた種が、それぞれの分野で芽を出してきている。それが、まさに「夢の学校」の誕生であると考えています。

私は、現在、保育園の運営に関わり、幼児教育に携わっております。その職についてご縁も古賀先生なしでは、存在しなかった縁だと考えています。

そのご縁は、古賀先生に「直記、お前は幼児教育部門を頼む」と言われているような気がしてならないのです。

例え、法人や形は違おうとも、古賀先生の想いを次世代の子どもたちに伝えている場所である以上、「夢の学校」という存在に値するのではないかと私は思うのです。

古賀道場を巣立った生徒たちの共通点として、「大きな志を持ち、人の役に立つことを喜びに考えている」ということだと思います。休暇で道場に集合すれば、古賀道場OG・OBたちそれぞれ、仕事に対する誇りや愛着、大きな志が見て取れます。

その古賀先生の弟子たちが、それぞれの場所で、それぞれの形で、「夢の学校」の一部として存在しているのではないのでしょうか。

現在、「夢の学校」として主体的に活動をしているのは、「夢の学校タマテ箱」であります。そこには現場職員の多大なる尽力により、古賀先生が思い描いていた「『人間力』(感動、安らぎ、志、思いやり)を育み、世界に貢献できる人」という理念の元、素晴らしい子どもたちの育成に貢献していると自負しております。

古賀先生の言葉をかりると「金以外のすべてはある!」という状態が現状です。

「夢の学校」のさらなる発展、さらにより良い環境を子どもたちのために創造していけるよう、物心両面に於いて、皆さまの一層のご協力を切にお願いする次第です。

「私の考える教育とは？」 ⑮



成長するために大切にしたい、二つのこと

ボランティアアシスタント 佃 麻美

私は家族に感謝していることがある。それは幼い頃、さまざまな“経験”をさせてくれたことだ。キャンプや山登り、県や町が募集する青少年交流事業に参加する機会、様々な劇を観劇する機会、そしてたくさんの絵本を読む機会などを与えてくれた。そしてワクワク・ドキドキ・ハラハラを、そこで出会った友達と一緒に、五感で思い切り体感した。

私はまず、この“たくさんの経験をする”ことが教育の一つだと思っている。様々な経験は、思い出を与えてくれるだけではなく、成長する過程となったり、そこから何か考えたり感じたりする機会を与えてくれるからだ。

このたくさんの“経験”が今の私の基盤となっていると感じている。私は幼い頃の様々な自然体験があったからこそ、人と自然が共生する自然の大切さに気付き、世界が直面する食と農の問題に関心を持ち、青年海外協力隊に参加するなど国際協力の道と出会うことが出来た。

また、子どもの頃から同学年だけでなく、“様々な年齢の人と関わる機会を持つこと”も教育の一つだと強く思っている。この重要さに気付いたのは、青年海外協力隊員として村びとたちと共に生活・活動をしていた時である。私が活動していた村では、一世帯あたりの子どもの数が多いため、兄弟姉妹がよく面倒を見ていた。さらに子どもたちが、近所の赤ちゃんの面倒をみたり、年配者の周りに集まり話をしている様子をよく見かけた。だからこそか、子どもたちは皆、思いやりが深かった。様々な年齢の人と関わる中で思いやりの心を育み、年配者との話から礼儀や知恵を学び、子どもたち自身の行動として現れていたのだと思う。

今の時代だからこそ、幼い頃から“たくさんの経験”をし、“様々な年齢の人と関わる機会”を積んでゆくことが、自分を形成する上でとても大切なことではないかと感じる。私も、これからもずっと、この二つを積み重ね、より成長してゆきたいと思う。

2012年古賀道場の活躍！！

2012年の古賀道場の生徒たちの活躍を振り返ります。公式戦の個人の成績や、
 昨年の昇段審査に合格し晴れて有段者となった人達を紹介します。



第36回佐賀県空手道選手権大会



4月8日(日)開催

草場 宣宏
一般組手の部 3位入賞

松尾 昌大
高校生組手の部 優勝



中体連空手道競技大会

7月1日(日)

梶山 大地 (中3)
個人組手 優勝



第48回和道流空手道連盟全国大会



9月22日(土)・23日(日)

光安 貫泰 (小2)
個人組手 3位

音成 龍二 (小6)
個人組手 3位

杠 蓮 (小6)
個人形 8位



第15回高校生空手道 新人戦大会

9月30日(日)

松尾 昌大 (2年) 個人組手 優勝



和道流空手道昇段審査合格者

昨年の和道流昇段審査会には5名が挑戦し、
見事5名とも合格する事が出来ました。
2012年、古賀道場に5名の新しい黒帯が誕生しました。

塚本 みな子	一般初段合格	(入門日	平成19年1月)
佐々木 佳寿子	一般初段合格	(入門日	平成20年8月)
吉原 翔汰	少年初段合格	(入門日	平成17年11月)
大野 可和世	少年初段合格	(入門日	平成19年2月)
杠 蓮	少年初段合格	(入門日	平成21年4月)



中学生空手道新人戦大会

11月3日(日)

大野 可和世 (1年)
個人形 3位

古賀 愛望 (1年)
個人組手 3位



道場通信

和道流
古賀道場



厳しい稽古に耐え、目標に向かって努力した結果、良い結果を得ることが出来たのだと思います。今年も古賀道場は「努力」する事の大事さを指導していき、更に大きな成長を目指します。

英語的思考のススメ
「さよなら、ビル先生」

古賀英語道場で二十五年間に渡り講師を努めていただいたビル・サコビッチ先生が二〇一二年十二月二十日にお亡くなりになりました。享年六十三歳。あまりにも突然のことでしたので、まだご存知でない方もいらっしゃるかも知れません。改めてここでお伝えいたします。

十二月の初旬に胃潰瘍と思われ病院にいかれ、早期の胃がんが発見されました。すぐに入院をされ胃の中をあけてみると、奥の裏の方に末期癌が発見されもう手遅れだということが分かりました。そして不運にも突然、肺の血栓がお亡くなりになられる十日前ぐらいに起こり、意識を失われ、そのまま回復せずに命を落とされました。

ビル先生はお亡くなりになる直前の遺言みたいなものがあり、告別式は親族だけでやって欲しいと強く望まれていました。ビル先生はみんな

に元気なままの姿で覚えてもらいたかったのです。ですが、そこを何とか英語道場の関係者のみ来てもらうように奥さんからお知らせがありましたので、お通夜と告別式に参加させていただきました。

幼少の頃から古賀英語道場に通っていた僕は八歳の時にビル先生と出会いました。外国人が一人もない佐賀ではかなり目立つ存在でした。まさに「ビル」のように背が高かったからビル先生と言って笑っていたことを、今でもはつきりと覚えています。それから、十七歳でアメリカへ高校留学をするまで教えていただきました。

そして、たまたま進学先の大学院に選んだタウソン大学はビル先生の出身のメリーランド州ボルチモア市にあり、僕はビル先生の故郷で四年間程過ごすことになったのも、やはり何かの縁なのでしょう。ビル先生の叔父さんに市内を案内してもらったり、ビル先生の実家から使っていた車や低価格で譲りうけたこ

ともありました。

約四年半前、古賀武夫先生がお亡くなりになったことをきっかけに帰国してからの間、側で支えていただきました。少しの間でも一緒に仕事をし、生徒ではなくて大人として色々な会話ができたこと、学ばせてもらったこと、笑ったこと、ともに分かち合ったこと、すべてに感謝しています。

悲しい。確かに悲しい。だけれど進まなくてはなりません。

道場で英語を教えることが大好きだったビル先生。どの生徒よりも大きな声ではしゃいで、フレンドリー過ぎて生徒達にひかれても、関係無しで本気で向き合っていたビル先生。

けれど、今はもう道場にいないビル先生。

誰よりも毎年楽しみで二十年間も関わってきた英語劇祭。今年も担当した三つのク

日前に他界したビル先生。今年の英語劇祭はとても良かったです。ビル先生の気持ちが生徒達の心に宿っていました。今年もビル先生が指導した生徒達は特に良かったです。優勝した姿を見せたかったと思います。

ありがとうございます、ビル先生。

あちらの世界で古賀先生に会っていますか？一緒に酒飲んですか？ちょっと早すぎたんじゃないですか？

次にどこかでまたビル先生に会える時まで、ビル先生の心を感じながら生きてみようと思います。



当時39歳のビル先生

英語的思考の
ススメ vol.11

古賀英語道場代表の青柳達也による連載コラムです。
英語教育とグローバル人材教育というテーマについて、
色々な視点から世の中を見つめながらコメントしていきます。

1月～3月のお知らせ

●は地球市民の会、♥は古賀道場
★は夢の学校 の行事です

●古賀武夫生誕祭「武桜会」

3月23日(土)19時より

世界平和道場

会費500円

19時から深夜まで、都合のつく時間に

お集まりください。思い出を語り合しましょう。

各自の飲み物食べ物物は持ち寄りです。

♥和道流空手道佐賀県大会

2月23日(土)

佐賀市立体育館

♥子ども伝統文化発表会 (能楽)

2月24日(日)

佐賀城本丸

①11:00～ ②13:00～

★平成24年度 内閣府地域連携事業

「男女協働によるさが地域防災力向上プログラム」

知とつながりよ！知らんとソソる 防災セミナー

期日：平成25年1月20日(日) 13:30～16:30

場所：ほほえみ館(佐賀)

参加費無料

フェイスブック・ページをご覧ください!!

地球市民の会の活動の今がわかります! ミャンマーからも報告がすぐにわかります! スタッフや理事の写真も出ています。アドレスは

<http://www.facebook.com/chikyushiminnokai> です。

(フェイスブック・ページはフェイスブックに登録していない方も外部から見る事が出来るページです。是非一度ホームページを見るつもりでご覧ください!)

facebook



●定期会員総会 30周年記念イベント

5月18日(土)佐賀市天神 アバンセ

予定を空けておいてください!

♥古賀英語道場 英語カルタ大会

3月24日(日)

♥古賀英語道場

グローバル・エジュケーションプロジェクト

3月28日(木)～29日(金)

大分県別府市

★第3回終了式

3月29日(金) 予定



スタッフの
ひとこと

東日本大震災支援事業進行中です! 「佐賀から元気を送ろうキャンペーン」
ホームページで活動をご確認下さい! <http://www.genkiokurou.jp/>

新春大喜利に挑戦

2013年がスタートします。新年を祝うおもしろ大喜利に挑戦して下さい。今年は「あいいうえお」作文!! お題は…「おもち」!!
お：お年玉! も：もっといっぱい! ち：ちょうだい!! いつの時代も子どもはこれが楽しみです。お後が宜しいようで…。

地球市民の会

大野 博之 お：お利口さん! も：もう覚えたの? ち：中国語! これって夢? ああ、中国交流事業が始まる! ラオス語も…ヤバイ!

江口 恵美 お：大忙しの内に今年も残り、あとわずか も：もっと寝たいと思いつつ ち：ちょっとだけ…と夜更かしの夜は続く年の瀬なーり!

岩永 清邦 お：おおうじ も：もう限界 ち：力尽く

藤瀬 伸恵 お：思いやり も：持っている人は ち：地球市民

戸田 玲子 お：お茶を も：もっと飲みに来てよ ち：地球市民の会へ

古賀英語道場・空手道場

古賀 大之 お：おりゃーっ!! と も：モチベーションを無理にあげ!! ち：挑戦する蛇の年!! 今年は何にでも挑戦する一年にしますよ!! 今年もよろしくお願いします。

古賀恵美子 お：大忙しでも も：もっと稽古をいっぱいして ち：ちゃんと黒帯とるまでガンバルゾ!!

青柳 達也 お：おくさまに感謝し も：もちつもたれつ ち：ちいさな幸せを感じることに。

夢の学校

吉村 薫 お：大忙し も：もうダメだと ち：腸が悲鳴をあげました。(みなさん今年も健康で過ごしましょう)

高柳 哲也 お：お屠蘇飲み も：もう一杯と ち：調子づき(下戸の私は屠蘇ですら酔っ払うのです…)

山口 則子 お：おみくじを も：もう一度ひいても ち：大吉でした。(何度ひきなおしても大吉とは縁がない)

松原早葉子 お：おむすびを も：もっと上手に ち：超早く! 今年の目標です。

地球市民ネットワーク

■北海道地球市民の会
〒061-3214 北海道石狩市花川北4条2-197
会長/阿部功 事務局/新保知博
TEL・FAX: 0133-74-1296

■地球市民の会ふくしま
〒963-8681 福島県郡山市喜久田町1丁目120-1
(株)石黒
会長/事務局担当 石黒秀司
TEL: 024-959-6426
FAX: 024-959-6577

■地球市民の会東京
〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-2-13
会長/有澤正典 事務局/佐藤敏行
TEL: 03-3662-0331
FAX: 03-3662-0400
E-Mail: arisawa@nun.co.jp

■地球市民ACTかながわ
〒231-0821 神奈川県横浜市中区本牧原3-1-203
会長/近田真知子 事務局担当/伊吾田善行
TEL・FAX: 045-622-9661
E-Mail: port@tpak.org

■地球市民の会ぎふ
〒501-6241 岐阜県羽島市竹鼻579-1
竹花園内
会長/森幹治 事務局担当/平井八重子
TEL: 058-391-5415
FAX: 058-391-8600

■地球市民みえの会
〒514-0027 三重県津市大門7-15津センターバース3F
津市市民活動センター内
会長/伊藤洋之 事務局担当/秋葉幸信
TEL: 059-226-5700
FAX: 059-224-8911
E-Mail: miemiemi21@hotmail.com

■地球市民の会京都
〒605-0873 京都市東山区下島町484
会長/宮川尚子 事務局担当/西田一貴

■神戸戸有頂天倶楽部
〒657-0045 神戸市灘区下河原通3丁目4-3
会長/松元隆司 事務局担当/大西陽治

■愛媛地球市民の会
〒799-0712 愛媛県四国中央市土居町
入野859-1
会長/森高康行 事務局担当/丹生谷宗久

■北九州地球市民の会
〒802-0006 福岡県北九州市小倉北区魚町1-5-14
中央会館2F
会長/河野一郎 事務局担当/大山研児
TEL: 093-521-8181
FAX: 093-551-2296

■地球市民の会福岡
〒814-0164 福岡県福岡市早良区賀茂2丁目30-4
(株)増屋内
会長/増田誠司 事務局担当/西村和寿
TEL: 092-801-5888
FAX: 092-801-5789

■(特活)コミネット協会
〒861-8039 熊本市長嶺南2丁目5-31
会長/池永憲貞 事務局担当/富田、田中
TEL・FAX: 096-387-7139

■古賀英語・空手道場
〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10
TEL: 0952-25-2295
FAX: 0952-26-4922

■夢の学校をつくる会
〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10
TEL: 0952-22-6262
FAX: 0952-26-4922

ネットワーク・テラ 冬号 VOL.149

発行/
認定特定非営利活動法人 地球市民の会
〒840-0822
佐賀県佐賀市高木町3-10
ホームページ: <http://tpa.nk-net>
E-mail: office@tpa.nk-net
TEL: 0952-24-3334
FAX: 0952-26-4922
発行日/2013年1月31日
発行人/佐藤昭二
編集人/地球市民の会 事務局
印刷/株サガブリんティング